資料

マダニ類による人体刺咬39例

山口 昇* 高田 伸弘**

* 埼玉医科大学寄生虫学教室

(〒 350-04 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 38)

** 弘前大学医学部寄生虫学教室

(〒 036 青森県弘前市在府町 5)

(受領: 1980年11月13日)

Thirty nine case reports of
human infestation with
ixodid ticks

Noboru YAMAGUTI*

and Nobuhiro TAKADA**

* Department of Parasitology, Saitama
Medical School, Iruma-gun,
Saitama 350-04, Japan** Department of Parasitology, Hirosaki
University School of Medicine,
Hirosaki 036, Japan

マダニ類による人体刺咬例は1971年以来毎年報告されており、とくに最近数年間の報告数は激増している。筆者らは日本のマダニ類のヒト疾病へのかかわり方を見直す目的で、過去におけるすべての人体刺咬例を収集し検討しつつあり、それに加えるべき資料として同定を求められたものや、確実にマダニ類による刺咬例として筆者らに寄せられた情報などから成る39例を報告する。これらの資料のうちとくに以下の項目について注目したが、記述の簡略化のためそれら項目にはそれぞれの番号を該当させた。また断わらぬ限り虫体同定は筆者の山口または高田がおこなったが、疑問を残すようなものがなかったので同定の根拠は示さない。

①患者年齢、性。②咬着部位。③刺咬時の自覚症状(痛痒感等)。④咬着期間中の痛痒感、異常感等の発現。⑤自覚症状以外の障害所見。⑥マダニの除去者または医療機関、除去年月日、除去法(断わらぬ限り“抜除”は皮膚を切開または切除することなく、指やピンセットで力を加えて引き抜いた場合をさすものとする)。⑦除去後障害の有無。⑧刺咬を受けた場所、日時、状況、除去

されたマダニの状態。⑨推定咬着期間。

Ixodes ovatus ヤマトマダニ雌成虫による15例

症例 1. ①42歳、女。②頸部。③なし。④軽い痒みと異物感。疣と思った。⑤小紅斑と丘疹。⑥東山梨市牧丘町立病院、1975年5月25日、クロロホルムでダニを麻酔後静かに抜除し、ステロイド、抗ヒスタミン合剤軟膏塗布。⑦除去後3日目に来院のさい紫色の色素沈着あり、以後来院せず治癒したものと思われる。⑧患者は牧丘町在住で山林へ入ったり、山で仕事をしたことはないというが、牧丘町は山林が多い。虫体は口下片を欠き飽血状態。⑨不明。

症例 2. ①58歳、男。②頭皮。③なし。④激しい痒み。⑤不明。⑥本人、1975年7月22日、指の爪で掻き取った。⑦なし。⑧北海道渡島支庁川汲で昼間野外作業中に頭髮間に虫が侵入するのに気がついたがそのままにしておいたところ、帰宿後激しい痒みが生じた。爪で掻き取ったら8匹の雌成虫が採取できた。虫体の状態は不明。⑨1~2時間。

症例 3. ①59歳、男。②右肩。③、④なし。⑤小発赤。⑥本人、1976年8月23日、抜除。⑦虫体一部が皮内に残留したため外科医に残存物を含む皮膚片を切除してもらい予後は快癒。⑧8月19日山形県奥山寺で野外作業中に刺咬を受け入浴中に気付いた。⑨4日。

症例 4. ①22歳、女。②腹部臍上。③、④なし。⑤小発赤。⑥本人、1976年8月23日、抜除。⑦なし。⑧8月19日山形県奥山寺で上記症例3の患者とともに野外作業中刺咬を受け入浴中に気付いた。虫体は完全に除去されたという。なお症例2, 3, 4の虫体同定は山形大学齊藤豊博士。⑨4日。

症例 5. ①24歳、男。②背中。③、④なし。⑤軽い発赤。⑥家人、1976年9月8日、抜除。⑦なし。⑧8月30日に東京都西部にある雲取山に登り帰宅後は何ら異常を感じなかったが、9月8日家人に背中の発赤と虫体を指摘された。虫体は口下片を欠き半飽血状態。⑨9日。

症例 6. ①4歳、男。②左上眼瞼。③、④、⑤なし。⑥自治医科大学眼科、1977年6月7日、付着部分を睫毛鉗子でつかみ抜除。⑦なし。⑧5月29日に栃木県五十里湖に行き、家族が山菜取りをしている間、近くの沢で水遊びをした。3日後に眼瞼の腫瘍に気付き上記眼科を受診。腫瘍は眼瞼接触部にあり睫毛の間に睫毛と走向を異にしてときおり動く4対の棘状突起を認めたので、ある種の寄生虫と判断し細隙灯顕微鏡下で虫体の中央をはさんで引張ったが取れないので、上記のようにつまみ直して引張ったところ口器を皮内に残すことなく完全に除去できたという。しかし筆者が除去虫体を検査した結果、口下片を欠いており除去は不完全と考えられる。患者宅

では小鳥、犬を飼っており近所の猫もよく出入りするという。本例は福崎・窪野(1978)によって報告されたが、抄録には上記のごとき状況が記されていないので改めて報告した。⑨9日。

症例 7. ①17歳, 男. ②右頸部と左側胸部の2か所. ③, ④, ⑤なし. ⑥外科医院, 1977年8月2日, 皮膚片ごと切除. ⑦なし. ⑧7月28日から神奈川県丹沢山系に登山し, 山小屋に宿泊. 帰宅後咬着に気づき上記医院を受診. 2個体による2か所刺咬例で, 1個体はほぼ飽血に近く皮膚片ごと切除されたため除去は完全, 他の1個体は病理組織検査用切片とされたため著者らは見ていない. なお同医師によると同患者は数年前にも北海道および東北地方旅行中にマダニに刺され, 列車の中で自分で除去したことがあるという. また同医師は別の患者からも1974年7月20日に左頸部からマダニの類を切除した経験があるともいう. ⑨5日.

症例 8. ①50歳, 女. ②眼瞼. ③不明. ④弱痛. ⑤発赤腫脹. ⑥整形外科医院, 1978年5月30日, 小切開のうえ抜除. ⑦不明. ⑧弘前市郊外の山林で刺咬を受けた. 虫体は半飽血状態. その他の状況不明. ⑨4~5日.

症例 9. ①24歳, 男. ②臀部. ③なし. ④痛みと痒み. ⑤5 cm 径の発赤腫脹の中央に5 mm 径ほどの発赤強い丘疹. ⑥飽血のすえ自然脱落, 1978年9月25日. ⑦上記⑥の所見があったが咬着に気付いてから5, 6日後に化膿, ダニ離脱後も1週間化膿が持続. ⑧刺咬場所は札幌市野幌の平地林で, 飽血離脱まで著者の一人高田が観察して上記所見を得た. ⑨6~7日.

症例 10. ①66歳, 男. ②下眼瞼. ③なし. ④弱痛. ⑤小発赤. ⑥大館市北秋中央病院皮膚科, 1979年5月, 皮膚片ごと切除. ⑦不明. ⑧大館市花岡鉾山付近の山林, 虫体は若干吸血. ⑨3日.

症例 11. ①76歳, 男. ②右眼瞼. ③なし. ④なし, 疣と思った. ⑤なし. ⑥眼科医院, 1979年6月2日, 眼瞼と虫体に2%プロカイン注射後, 小切開のうえ抜除. ⑦なし. ⑧患者は前橋市在住, 日時不明, 牛舎の糞の敷き替え作業の後, 異物付着に気づき眼科医院を受診. 虫体は若干吸血. 口下片には小皮膚片が付いており欠損なく完全除去. ⑨3日.

症例 12. ①不詳, 男. ②上腕. ③不明. ④弱痛. ⑤小発赤. ⑥本人(=内科医師), 1979年8月, 抜除. ⑦不明. ⑧弘前市郊外で近くに山林がある場所で魚釣りをした. 虫体は若干吸血の完全虫体. ⑨2日.

症例 13. ①13歳, 女. ②左鎖骨下胸部. ③, ④不明. ⑤1 cm 径の発赤隆起. ⑥本人, 1980年6月5日, 抜除. ⑦除去された部に針状の黒点とそれを中心とした紅斑が認められたが以後快癒. ⑧患者は東京都新宿区在住

で動物との接触, 登山歴もなく, 居住地域の地表はコンクリートでおおわれ, マダニが生息しうる環境とは考えにくい. しかし近くに野鳥が訪れる高い樹木と土を裸出した空地があるので鳥によって運ばれたダニによる刺咬の可能性はあるが, 都心でのマダニ刺咬例として注目に値する. 虫体は潰されて扁平となっていたが大きさから判断して飽血状態に近いと推測できる. 顎体部を欠いており, 診察に当たった医師の情報⑦から口下片は皮内に残留したものと思われる. ⑨不明. なお本例は北村・岩重(1980)によって口頭発表された.

症例 14. ①不明, 女. ②背部. ③, ④, ⑤不明. ⑥弘前市内某皮膚科医院, 1980年6月14日, 皮膚片ごと切除. ⑦, ⑧, ⑨不明.

症例 15. ①8歳, 男. ②左下眼瞼. ③, ④, ⑤不明. ⑥慶応義塾大学眼科, 1980年8月11日, カミソリの刃で切除. ⑦不明. ⑧患者は横浜市内在住の学童で長野県戸隠高原の林間学校に参加し, 8月5日に中社付近で昆虫採集をした. 虫体は顎体部のうち口下片と缺角が欠けており, 十分吸血. おそらく担当医は虫体を引張りながらカミソリの刃で切除したため, これらの部分を切断したものである. ⑨6日. 本例の臨床的所見は担当医から図譜として眼科関係の雑誌に投稿が予定されている.

Ixodes persulcatus シュルツェマダニ雌成虫による 8例

症例 16. ①27歳, 男. ②左胸部. ③なし. ④肋間神経痛に似た強い痛み. ⑤咬着部を中心とした径6 mm 程度の紫斑. ⑥本人, 1948年7月下旬, 抜除. ⑦なし. ⑧7月下旬に長野県前穂高岳中腹の標高約2,500m 以上の地点で野営をした. 周囲には残雪があり, 木枝の上に木の葉を集めその上にシュラフを敷いて寝た. ⑨1日以内.

症例 17. ①43歳, 男. ②陰茎龜頭部. ③なし. ④軽い痛み. ⑤なし. ⑥本人, 1963年9月11日, 抜除. ⑦なし. ⑧北海道十勝支庁然別温泉近くでの日中野外作業中刺咬を受けた. その日の夜行列車中で排尿のさいに気付いた. 症例16とともに虫体同定は東京医科歯科大学加納六郎教授. 咬着期間が短く完全に除去されたものと思われる. ⑨1日以内.

症例 18. ①67歳, 男. ②下腿前面. ③なし. ④ふだん痛痒感はなかったが夜飲酒をすると痒みが強く発現した. ⑤咬着部を中心とした発赤腫脹があり, 軟らかく指圧痕を残す. ⑥本人, 1974年7月19日, 抜除. ⑦発赤と軽い糜爛. ⑧6月28日に蔵王連峰の名号峰で甲虫類の採集をした. 翌日痒みを覚えたので調べたところ咬着を認めた. ヒルのように満腹吸血すれば脱落するものと思い放置したが, 朝夕に風呂に入るも取れず, 7月2日頃より

患部が腫脹し始め、紅斑が紫斑に変わりだした。あまりダニが取れないので上記月日に指先でつまみ静かに引張ったところ、組織が糜爛していたため比較的容易に除去できたという。虫体は完全で半飽血。⑨22日。

症例 19. ①35歳、男。②臀部と右前腕の2か所。③不明。④痛み。⑤浮腫性紅斑。⑥信州大学皮膚科、1976年7月16日、皮膚片ごと切除。⑦なし。⑧7月15日に自営のリンゴ園で除草作業中に刺咬を受けたらしい。虫体同定は信州大学吉田利男博士。⑨1日。

症例 20. ①成人男子。②右胸下部。③、④なし。⑤不明。⑥1976年8月16日、自然脱落。⑦なし。⑧5月に長野県八ヶ岳高原の山荘にでかけた。7月中旬に右胸下部の疣に気付いたが放置したところ自然脱落し、落ちた疣が脚状のものを動かしているの、他症治療のため通院中の北里大学外科に同日持参した。虫体は大島司郎博士により同定され、後日山口も確認した。口下片は完全で飽血状態。⑨5月に八ヶ岳高原に行ったさいに刺咬を受けたとすると、咬着期間は約3か月に及び、本属マダニ類の吸血期間としては長すぎることから、刺咬は疣様異物に気付いた7月某日の数日前と考える方が妥当であろう。

症例 21. ①不明、男。②～⑤不明。⑥医師(科不明)、1979年8月、拔除。⑦不明。⑧弘前市郊外。虫体はかなり吸血しており保存状態悪く口下片の欠損は不明。その他の状況も明らかなでない。⑨4, 5日。

症例 22. ①50歳、女。②左大腿後面。③なし。④何となく触知した程度。⑤不明。⑥本人、1980年7月13日、拔除。⑦拇指頭大の発赤と米粒大の紫色硬結。⑧岩手県二戸市福岡の山林で小用時に刺咬を受けたらしい。翌日ツツガムシを心配して八戸市立病院皮膚科に除去虫体を持参した。虫体は完全。⑨1日以内。

症例 23. ①不明、男。②～⑦不明。⑧青森県三戸郡階上村、虫体は未吸血で完全。⑨不明。

Ixodes nipponensis タネガタマダニ雌成虫による4例

症例 24. ①6歳、女。②頭皮。③なし。④頭が痛いと言った。⑤発赤。⑥青森県野辺地町立病院皮膚科、1979年5月7日、5mm径の皮膚片ごと切除。⑦なし。⑧青森県上北郡野辺地町、初診3日前から頭皮の異物に気付いていた。虫体はかなり吸血。⑨4日。

症例 25. ①52歳、女。②右側胸背部。③なし。④小結節に気付いた程度。⑤なし。⑥八戸市立病院皮膚科、1980年5月6日、皮膚片ごと切除。⑦なし。⑧青森県三戸郡田子町夏坂の“みろくの滝”付近で山菜取りをした。初診の10日以上前から小結節に気付いていた。⑨10日以上。

症例 26. ①9歳、男。②後頭部被髪部。③なし。④初診3日前に弱痛。⑤紅色丘疹とリンパ節小腫脹。⑥1980年7月28日に自然脱落し東京女子医科大学皮膚科に虫体を持参。⑧7月21日から25日まで福島県南会津から尾瀬方面にかけて出かけたさい刺咬を受けたらしい。虫体は完全で飽血。⑨7日。

症例 27. ①23歳、女。②鼠蹊部。③なし。④軽度の痛み。⑤発赤。⑥金沢医科大学皮膚科、1980年7月31日、皮膚片ごと切除。⑦不明。⑧7月25日より白山に登り翌日下山、昼頃帰宅し有痛性皮疹に気付いて受診。虫体は完全でほぼ飽血。⑨6日。本例の臨床所見は皮膚科学関係の雑誌に早川幸紀医師によって発表される予定。

その他の *Ixodes* spp. 雌成虫による3例

症例 28. ①35歳、男。②頸部。③若干の痛み。④痒み。⑤不明。⑥本人、1978年9月14日、拔除。⑦不明。⑧青森県下北郡東通村にある平地の広葉樹林内でその日のうちに除去された。虫体は未吸血の *Ixodes monospinosus* ヒトツトゲマダニで完全。⑨1日以内。

症例 29. ①63歳、男。②左胸部。③なし。④軽い痛み。⑤膿疱形成。⑥本人、1980年4月17日、自然脱落。⑦不明。⑧4月12日に神奈川県丹沢山系を登山中に刺咬を受けたらしい。17日に擦ったところ脱落したので東京警察病院皮膚科に持参。虫体は体重935.6mg、顎体部を含む体長14.0mm、体幅12.5mm、体厚7.0mmに達する飽血した *Ixodes acutitarsus* カモシカマダニの完全虫体で、生存していたので飼育を試みたが2週経過後産卵せずに死亡した。⑨5日。

症例 30. ①20歳、男。②上眼瞼。③なし。④痒み。⑤軽い発赤。⑥本人、1978年夏、指で拔除したが残存物があったので眼科医に小切開して完全に除去してもらった。⑦不明。⑧青森県岩崎村白神岳の山林、虫体は種名同定不能の状態であったがマダニ属成虫。⑨2日。

Amblyomma testudinarium タカサゴキラマダニによる4例

症例 31. ①41歳、男。②臀部。③なし。④弱痛。⑤なし。⑥本人、1971年7月15日、拔除。⑦なし。⑧本人は宇治市在住で自宅は鳥獣保護区内の山ぎわにあり、イノシシ、キジ、イタチなどが出没し庭をイノシシが横切ることさえあるという。7月15日は蚊採集の目的で朝から宇治市、京都市伏見区の豚舎6か所をまわり、出勤後臀部のゴマ粒大の異物に気付いた。虫体は未吸血の若ダニ。⑨1日以内。

症例 32. ①42歳、女。②左趾間。③、④、⑤なし。⑥本人、1978年7月10日、拔除。⑦なし。⑧本人は症例31の妻で7月9日午後6時頃咬着に気付いた。その2時間ほど前に屋外に出ていた時に刺咬を受けたらしい。虫

体は完全で未吸血若ダニ。⑨数時間。

症例 33. ①65歳, 男. ②肛門. ③不明. ④初診の2週間ほど前から腫瘍に気付いていた. ⑤不明. ⑥医師(科名不詳), 1980年7月23日, 顎体部を鋏で切断. ⑦不明. ⑧本人は沖縄県石垣市在住で刺咬も石垣市. 腫瘍に気付いていたが引張っても痛くてとれないので同市で開業の医師を受診した. 虫体は口下片を欠くほぼ飽血の雌成虫. ⑨2週間.

症例 34. ①70歳代, 女. ②外陰部. ③, ④, ⑤不明. ⑥宮崎医科大学産婦人科, 1980年7月, 皮膚片ごと切除. ⑦除去後来院せず治癒したものと思われる. ⑧刺咬場所, 日時, 状況等不明. 虫体はほぼ飽血の雌完全虫体. ⑨不明.

Haemaphysalis longicornis フタトゲチマダニによる3例

症例 35. ①57歳, 男. ②右大腿部内側. ③なし. ④激しい痒み. ⑤1 cm 径の発赤. ⑥本人, 1974年8月, 抜除. ⑦なし. ⑧自宅でフタトゲチマダニを飼育中, 容器外に這い出した1匹の幼ダニによって刺咬を受けた. ⑨1時間以内. 同定は山形大学斉藤豊教授.

症例 36. ①41歳, 男. ②陰茎. ③, ④, ⑤不明. ⑥佐世保市内某病院, 1980年9月, 抜除. ⑦不明. ⑧虫体はほぼ飽血の雌成虫で同定は農林水産省家畜衛生試験場の北岡茂男博士. その他の状況はすべて不明. ⑨不明.

症例 37. ①70歳代, 女. ②腋下. ③, ④, ⑤不明. ⑥佐世保市内某病院, 1980年9月, 抜除. ⑦不明. ⑧症例36に同じ. ⑨不明.

現在まで *Haemaphysalis longicornis* による人体刺咬は疑いをもたれていたが症例35, 36, 37によってヒトを刺すことが確実となった. 本種は本州における牛のピロプラズマ症媒介種であり, ヒトのパペシア症が外国で報告されていることを考えると, 今後注意すべきことがらと思われる.

その他のマダニ類による2例

症例 38. ①53歳, 女. ②左側大陰唇. ③, ④, ⑤いずれも不明. ⑥福井県武生市内某産婦人科医院, 1977年8月4日, 皮膚片ごと切除. ⑦不明. ⑧外陰部腫瘍の臨床診断で皮膚片ごと切除され, 病理組織検査の目的で切片標本とされたものゆえ, 標本から虫種の同定は不可能であった. パラフィンプロックにわずかに残る部分を切片標本としたが, それらから属, 種とも不明ながらマダニ類(広義の)と判断された. その他の状況は担当医に問合わせたが無回答のため一切不明である. ⑨不明.

症例 39. ①50歳代, 男. ②陰茎亀頭部. ③, ④, ⑤不明. ⑥本人, 1976年8月上旬, 抜除. ⑦除去後2, 3日で化膿. 化膿中は痛痒感があり, 患部にときどきヨードチンキを塗ったが入浴時薄い膜とともににはがれやすくなり, とり除くと径約2 mm, 深さ1 mm の傷口ができた. 傷口は翌年1月頃までの約6か月間残った. 除去当時残存した虫体の一部は排膿のさい早い時期に排出された. ⑧愛知県内にて刺咬. 虫体は棄てられたので著者らは見ていないが黒褐色であったという. ⑨約1時間.

おわりに虫体をお送りいただき著者らに発表をお許し下さった大利昌久博士, 小関誠之助博士, 山田彪史博士, 伊藤洋一博士, 松本克彦博士, 石井明博士, 鈴木博博士, ならびに信頼すべき詳細な情報を提供していただいた黒佐和義博士, 前田理博士, 吉田利男助教授, 加納六郎教授, 斉藤豊教授に深く感謝します.

引用文献

- 福崎 昌, 窪野 正(1978): 眼瞼に寄生したヤマトマダニの1例. 眼科臨床医報, 72(1): 109.
北村忠平衛, 岩重 毅(1980): マダニによる皮膚寄生の1例. 第597回日本皮膚科学会東京地方会(1980. 10. 18)講演要旨集.

Summary

Thirty nine cases of human infestation by ixodid ticks were reported. Tick species were *Ixodes ovatus* (15 cases), *I. persulcatus* (8), *I. nipponensis* (4), *I. monospinosus*, *I. acutitarsus* and unidentified *Ixodes* species (1 each); *Amblyomma testudinarium* (4), *Haemaphysalis longicornis* (3); unidentified ixodid ticks (2). No bites by male ticks were reported whereas 2 cases were by nymphs of *A. testudinarium*. Biting mostly occurred during daytime field jobs in hilly areas from April to September. There seems preference of biting sites for *I. ovatus* and *A. testudinarium*, the former attacking on head and body especially on eyelids, the latter on lower extremities. Clinical manifestations by biting were generally no more than local flare and swelling of the sites, and few serious damages on the skin were observed except 4 cases, in which the sites came to suppurate. Three authentic cases of human infestation by *H. longicornis* were confirmed, but no viral or rickettsial infection occurred by the tick bites in all the cases.